

平成23年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>1 安全・安心まちづくり事業</b>									
1	継続	麻生区安全・安心まちづくり事業	1,500,000	1,500,000	地域振興課	●社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民、地域団体、事業者、行政機関等の連携及び協働により、区民が「安全で安心して暮らせるまちづくりを進める。 ●死亡事故に直結することの多い自転車事故を回避するための判断力向上に向け、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶことを目的に「スケアードストレート交通安全教室」（スタントマンによる自転車事故の実践）を実施する。	●ネット犯罪の研修会、振り込め詐欺の研修会、パトロール手法の講習会を開催 ●パトロール用物品の貸与 ●セーフティメールの配信実施、登録者増加に向けた町会を通じてチラシの回覧依頼、HPでの広報を実施 ●自転車事故防止教室（スケアードストレート教育）の実施	●住民の防犯に対する関心が高まるなか、パトロールの実施及びさらなる推進のため、当協議会主催による手法研修会の開催や物品の貸与を行うことにより、安全で安心なまちづくりに貢献した。また、セーフティメールの配信により犯罪発生場所が確認でき、的確なパトロールが可能となり、防犯意識の向上を図ることができた。 ●スケアードストレート教室は、私立桐光学園の生徒を中心に他の機関・団体も参加して実施した。実際の自転車事故の恐ろしさをリアルに体験してもらうことにより、生徒の事故防止の意識向上に役立った。	住民の防犯への意識・関心は高く、一層の関係機関の連携が求められている。事象別、年代別の犯罪等に対する研修会・講習会の継続開催や、地域間、パトロール組織間の意見交換会を継続して実施し、安全で安心なまちづくりを推進していく。また、スケアードストレート教育についても継続して実施し、少年の自転車事故防止に繋げていく。
2	継続	麻生区ガイドマップ増刷改訂事業	945,000	615,300	地域振興課	区民から好評を得ている麻生区ガイドマップを、最新の情報に更新し、改訂版を発行する。配布方法は、転入者に転入時に配布することを中心に、区役所窓口にて必要な方に配布する。転入者に知ってもらいたい、放置自転車等放置禁止区域、路上喫煙防止重点区域の掲載や、転入者が転入して不安のないよう、災害緊急時の井戸の所在地や避難所一覧など防災情報も盛り込むなど、地図情報だけでなく、麻生の各種情報を盛り込んだものとする。	●麻生区ガイドマップの改訂・発行 ●区ホームページの地図データの更新	●麻生区ガイドマップの改訂・発行（15,000部：転入者配布分8,000部と窓口配布分7,000部） ●麻生区ホームページ用の地図データ、新百合ヶ丘駅周辺図データの作成	他区の状況を見ながら、次年度も転入者に必要で知って欲しい情報を検討し発行していく。
3	継続	麻生落書き消し事業	325,000	279,325	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施し、落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。	●区内駅周辺等の一斉落書き消しの実施 ●地域の要請に応じた「出前落書き消し」の実施	●高石歩道橋周辺の一斉落書き消しの実施 ●新百合グリーンタウンの管理組合の要請に応じた「出前落書き消し」の実施 ●適宜、団体による落書き消しも実施	市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。
4	新規	小学校区危険箇所案内マップ作製事業	924,000	924,000	地域振興課	平成17年にA0サイズの全区版（都市計画図）で「ひやり・はぁ!と・マップ」を作製し区内各小中学校に配布したが、その後小学校の新設や統合等の環境変化があったため、改めて小学校区ごとに交通・防犯上の危険箇所を把握し、マップを作製する。	小学校区危険箇所案内マップの作製・配布を完了させた。	マップ作製に関する事前説明会、現地調査、各小学校担当者のマップ作製、麻生区交通安全母の会担当委員の点検と編集、原稿づくりまでの段階はスケジュールどおり順調に進捗した。平成24年1月からの校正、印刷、2月末の納品、3月中の配布についても支障なく予定どおりに完了した。	平成24年度は配布対象が小学校1年生に限定されるため、予算額が減少する。基本的にはマップの増刷で対応し、内容の改訂は行わない。

2 地域福祉・健康づくり事業

1	継続	あさお福祉まつり	2,660,000	2,660,000	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に知らせると共に、福祉について理解を深める「あさお福祉まつり」を開催する。	11月20日（日）に開催。71団体が参加し、活動紹介等を実施。また、東日本大震災復興支援チャリティコンサートも実施。	区内の障害者団体・ボランティアグループ・福祉施設等の活動の紹介、区内の障害者施設や作業所で作られている自主製品の販売や軽食・ゲーム等の模擬店の設置、体験学習等を実施。また、今年度は東日本大震災の復興支援のため、チャリティコンサートを実施し、区内の保育園児や演奏家等7団体が出演。さらに、会場内でも義援金を募り、約10万円が集まった。来場者に呼びかけ、日赤の献血車による献血も実施。また、麻生区保健福祉センター主催の「健康づくりのつどい」が同日開催された。	区民に対し、より広く関心を持ってもらえる企画や、学生等のより若い世代の参加を呼びかける等の工夫を行った上で継続実施する。
2	継続	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	912,000	870,557	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることによって、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。	●体験ウォーク年10回実施 ●公園de健康ウォークを麻生区内5ヶ所の公園で実施（各公園週1回ずつ） ●ウォーキングマップPRポスター作成済み	体験ウォークも毎回募集の8割を越す参加率で、初参加も3割を越えており、多くの人にアプローチができた。また、公園ウォークは今年度1ヶ所増え、ウォーキングの習慣化や閉じこもり予防につながる活動ができた。また、今年度新たに、ウォーキング推進実行委員会主催の区民向けのウォーキング講習会を年2回開催し、ウォーキングの知識や実技を学ぶ機会を設け、ウォーキングを開始するきっかけづくりを行った。	今後も区民の健康づくりのためのウォーキングを普及するために、今までの活動を振り返り、検証した上で、ボランティアの育成や研修、ウォーキングに関連した講演会の開催など、引き続き区民と協働して、より効率的な事業執行を目指していく。
3	継続	小地域のつながりネット支援事業	1,020,000	755,868	地域保健福祉課	「小地域のつながりづくり」をテーマに、区民や団体から人と人とのネットワークにより身近な暮らしの問題を解決する取組を募集し、審査を経て地域福祉活動の委託を行う。	●提案型事業の募集・選定を行い、2事業を実施 ●地域懇談会を2回開催（11月、3月予定）	●企画提案型事業2事業の実施により障害者と区民の交流が図られ、区民の障害への理解が深まった。また、障害者やその家族を支援する輪を広げることができた。 ●地域包括支援センターと共催で「災害時に生きる地域のつながりづくり」をテーマに地域懇談会を実施し、地域住民と関係機関との連携を強めて小地域でのネットワークづくりを推進した。	●企画提案事業については、麻生区地域課題解決型提案事業に統合する。 ●地域懇談会については、地域課題対応事業での実施は終了し、地域福祉計画推進の事業費にて継続実施する。
4	継続	若いときこそ健康貯金推進事業	790,000	53,342	地域保健福祉課	麻生区内中学校の生徒を対象に、健康に生活するための「バランスのよい食生活」をテーマにした講義と料理教室を実施する。なお、平成22年度に作成した冊子を使用し、講義及び料理教室を実施する。	●料理教室の実施 1校（他7校については1月以降に計画中） ●冊子の配付等による「食事バランスガイド」の普及啓発	区内中学生を対象にした料理教室を開催し、調理を通して健康な生活を送るための「バランスのよい食生活」について具体的に伝えることができた。また、料理教室以外の場面でも作成した冊子を配布し「食事バランスガイド」の普及啓発を実施することができた。また、麻生区食育推進分科会において本事業の趣旨や現状等の報告を行い、改めて事業への理解を求めることで、来年度以降の料理教室等の継続に向けて土台づくりができた。	中学生への働きかけについては、冊子の配付により自身の健康づくりへの目覚めを期待し、さらに保護者への働きかけにより、家庭全体における食育の推進を図る。
5	継続	高齢者見守りネットワーク事業	1,025,000	554,920	高齢者支援課	自分から相談ができない、家族がいない、介護放棄されている等の生活維持が困難になっていて、見守りや支援が必要なのに、これまでなら支援や介護サービスを受けていない高齢者の発見を、高齢者と接触がある各種事業者と協力依頼することで、区内全域ですばやい発見が行われ、住み慣れた地域で安心して生活をおくれるように関係機関での支援に繋げる。	●協力事業者を新たに3事業者拡充 ●麻生区町会連合会への事業説明を実施 ●「見守りガイドブック」を作成し協力事業者に配布	今年度新たに、協力事業者を3事業者拡充し、見守りのネットワークを広げてきた。また、麻生区町会連合会への事業説明を行うとともに、麻生区ホームページに事業説明を載せ、広く区民等への事業周知を行った。その他、新たに作成した「見守りガイドブック」を利用した事業の学習会を協力事業者と行い、協力事業者に事業への理解を更に深めてもらい、協力体制の強化を図ることができた。	当該事業について、新規協力事業者の拡充を行い、事業の充実を図っていく。また、川崎市として、翌年度からセブンイレブンジャパンが行っていく予定の見守り事業とのすり合わせなどを行いながら、更なるネットワークの拡充に努め、区内高齢者の安全で安心な生活の手助けとなるよう事業展開を行っていく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>3 総合的なこども支援事業</b>									
1	継続	子育て支援・企画事業	5,462,000	4,065,688	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
1-1	継続	こども相談窓口運営維持管理事業			こども支援室	子どもに関わる相談には子ども教育相談員、家庭相談員、保健師が中心となり対応しているが、必要に応じて児童・家庭支援係や障害者支援係・保護課及び児童相談所・療育センター・保育園・小中学校等の関係機関と連携し、多問題ケースや困難ケースに対しては関係部署とケースカンファレンスを実施し、問題解決に向けて連携や調整を行う。また、多頻度相談保護者や発達障害への対応の研修を実施し、問題の理解や対応を学び相談に活かしていく。	●専門カンファレンス(月1回開催) ●定期的な情報共有(月1開催) ●必要時関係機関とのカンファレンス(11月末までに27回) ●資質向上のため研修会(7月29日午前・午後で開催。参加者午前23名、午後27名)	●平時からの情報の共有及び専門カンファレンスを各月1回ずつ開催した。 ●必要時における関係機関とのカンファレンスを行い、カンファレンス以外にもケースの状況に応じて、迅速に各関係機関との情報共有を行った。 ●資質向上のための研修は、参加者が多くの時間を費やす内容に配慮し、基礎とグループワークを取り入れたところ好評であり、続編を望む声も多く寄せられた。	虐待や支援が必要な困難事例の子どもの相談に対し、関係機関との連携や調整をさらに強化していく。保護者や子ども・家庭が多様化しており、これらに対応していくためには専門家の助言が必須である。専門カンファレンスを活用し、相談を受ける側の資質の向上も含め、こども相談に生かしていく。
1-2	継続	麻生区子ども関連ネットワーク会議			こども支援室	麻生区における子どもに関連する関係機関、団体やグループの連携を図り、子育てや子どもの健全育成を地域全体で支援するために、子どもに関連する関係機関との情報交換、ネットワーク化に向けての協議を行う。	全体会議3回実施。各部会については「研修企画部会」4回、「情報部会」10回、「みんなのちず部会」5回それぞれ実施	●麻生区子ども関連ネットワーク会議を6月、11月、2月に開催。情報交換や、情報共有の充実を図った。「研修企画部会」については活動内容の検討、確認を行い今年度子育て関係機関・団体向けに研修会を2つ企画した。それぞれ約80名程の参加があり盛況であった。「情報部会」は子育てガイドブック改訂に向け内容検討をし、発行に協力できた。「みんなのちず部会」では一昨年度作成した(みんなのちず)の活用についての検討をし、子育てサロンやこども文化センターでの活用の場を広げると共に区民への広報周知もできた。	今年度の活動を踏まえ、より一層の子育て支援につながるよう継続していく。また全体会議の進め方、内容について検討する。
1-3	継続	麻生区子育て関連情報誌作成事業			こども支援室	麻生区の子ども・子育てに関係する部署・機関及び団体等の集合体である「子ども関連ネットワーク会議」を基盤に情報部会を立ち上げ、子育て中の保護者や子育てで支援に関わる人と共に2年前に発行した情報誌「きゅっ&ハグあさお」の情報を更新し、改定発行する。	10,000部作成及び配布	●予定通り掲載情報の更新及び記事の追加(外国籍区民向けのページ、災害時への備え)を行い、紙面の充実が図れた。赤ちゃん訪問での提供や区役所窓口での配布以外にも保護者が多く利用する施設に積極的に配架し、多くの保護者の手に渡るようにした。 ●写真やイラストを多用したことで、事業等の様子がわかりやすくなり「行ってみたい、と思える」という意や、「(知りたい内容が)探しやすい」という意見などがあり、好評であった。	情報は常に更新を行なうことが必要である。必要としている情報が区民のもとに行き届くよう、さまざまな媒体を用いながら情報提供に努め、子育て支援を行なっていく。
1-4	継続	麻生区子育て人材バンク事業			こども支援室	子育ての支援を行う子育てボランティアと支援を受ける子育てグループが麻生区子育て人材バンクに登録し、子育てグループから派遣の依頼を受けて、条件に合致する子育てボランティアを派遣し、子育てグループの活動支援を行う。	子育てグループへの子育てボランティアの派遣件数及び人数 113回 180人	区内の子育て支援に関する資格や特技を有する人材を活用し、区内で活動している子育てグループに子育てボランティアとして派遣することで、地域の子育てグループ等を地域全体で支援するとともに、地域の子育て基盤強化につなげることができた。	仕様、契約方法等を見直し、今後の事業の方向性を検討する。
1-5	新規	子どもの発達研修会事業			こども支援室	子どもの支援機能を強化するため、保育所や学校など関係機関と連携した施策展開を図り、総合的な子ども支援の更なる充実を図る。	子育て支援者向け研修は平成24年1月31日、2月7日に実施。参加者延べ40名。区民向け研修は2月14日に参加者35組77名で開催。	●子育て中の区民が、地域とのつながりを感じながら安心して子育てができるようにするという目的は達成できた。 ●子育て支援者向け研修は、特別な支援が必要な子どもも含めて、子どもたちが楽しめるおはなしの講習会を行った。すぐに実践に結び付けていくことができる内容であり有意義であった。	今年度は、保育所の区の移管に伴う業務量の増加から、全5回の開催を3回に減らして実施した。来年度は、こども支援室で行う研修会を整理して、区民向けには「地域子育て貢献事業」として1回、また子育て支援者向けは、子ども関連ネットワーク会議の研修中で1回を計画している。
2	継続	こども関連大学連携事業	1,664,000	1,508,328	こども支援室	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区マタニティコンサート事業			こども支援室	出産を控えた妊婦のリラクゼーションを図ることを目的として、昭和音楽大学の卒業生を中心とした演奏家のコンサートや、保健福祉センターの助産師による妊娠中の生活ワンポイントアドバイス、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行い、妊娠中からの子育て支援を図る。	12月15日(金)実施。参加者62名(大人45名、子ども17名)。	12月15日(金)麻生市民間大会議室で実施。参加者62名(大人45名、子ども17名)。 ①麻生図書館・読み聞かせボランティアグループによる絵本とわらべうたの紹介、②保健福祉センター助産師による妊娠中の生活ワンポイントアドバイス、③昭和音楽大学卒業生でプロとして活動している演奏家によるコンサートを実施。プログラムに子ども相談窓口の紹介を盛り込むなどして妊娠中からの子育て支援を図った。	開催時期や構成、時間配分等を検討し来年度に反映させて実施する。
2-2	継続	麻生区子どもと一緒にのコンサート事業			こども支援室	未就学児がコンサートの対象から除かれることが多いため、保護者からのニーズが高い未就学児を対象としたコンサートを実施する。演奏は昭和音楽大学の卒業生に依頼し、昭和音楽大学ユリホールで行う。	2月11日(祝)昭和音楽大学ユリホールにて同大学卒業生で活躍している歌手とピアノ奏者によるコンサートを実施。参加者349名。	未就学児を対象としたコンサートは保護者からのニーズは高いが、未就学児がコンサートの対象から除かれることが多く、身近なところであまり実施されていないため、子育て中の区民にとって身近な距離にある昭和音楽大学で未就学児を対象としたコンサートを実施することは大変有意義である。また、音楽を通じた親子の交流の機会となり、子育て支援を図ることができた。	開催時期や構成、時間配分等を検討し来年度に反映させて実施する。
2-3	継続	小学校・昭和音楽大学交流コンサート事業			こども支援室	昭和音楽大学の大学院生が区内の小中学校に出向き、コンサートや歌唱指導、楽器指導を行うことで、小学生に良質な音楽に触れる機会を提供する。さらに、大学生や大学院生と音楽を通じた交流を行うことで次世代育成を図る。	金程小学校:10月17日実施 長沢小学校:10月18日実施 麻生小学校:10月20日実施 真福寺小学校:12月9日実施	金程小学校:10月17日実施。全校生徒対象。声楽4重奏とピアノによるコンサート。 長沢小学校:10月18日実施。5・6年生対象。木管5重奏によるコンサート。 麻生小学校:10月20日実施。3~6年生対象。金管5重奏によるコンサート。 真福寺小学校:12月9日実施。全校生徒対象。木管5重奏によるコンサート。 各校とも昭和音楽大学の学生が学校に出向き、コンサートをすることで児童が音楽への興味、関心を持つきっかけとなった。また、学生も演奏だけでなく聴かせ方を学ぶ機会となり有意義な事業となった。	次年度は、実施方法や対象等の見直しを行い、今後の事業の方向性を検討する。
2-4	継続	地域にある鶴見川流域を活かした子育て支援事業			こども支援室	小学校の総合学習で児童が実際に川に入り魚を取るなどの流域学習を体験することで、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習などにつなげる。自然や防災などの避けては通れない問題に目を向けるとともに、次世代の育成を目指す。また、夏休みファミリー体験学習では休日開催することで父親の子育て参加を促す。	親子体験学習(7月31日)参加者54名(大人27名子ども27名) 公立小学校対象流域学習 岡上小学校(7月5日) 栗木台小学校(10月26日) 栗木台小学校(11月8日)	①親子体験学習参加者54名(子ども27名、大人27名)。体験学習を通じて親子の交流の機会となった。また、父親の参加もあり父親の子育てを促進できた。 ②公立小学校対象流域学習(全3回)流域学習を通じて、生物の生態学習や川の流れの学習、川の防災機能の学習するとともに、自然や防災などの避けては通れない問題に関心を持たせるきっかけ作りができた。	次年度は、実施方法や対象等の見直しを行い、今後の事業の方向性を検討する。
2-5	継続	あそぼう!けろけろ田園チャイルド事業			こども支援室	麻生区に在住する乳幼児の保護者を対象に公立保育園と田園調布学園大学と連携し、楽しい遊びの場を提供し、子育て支援を行う。公立保育園は学生との交流を通じた職員の人材育成を目的とし、大学は、親子と関わりの中で学生の子育て支援の実践力を養う場とする。	●9月5日(月)実施 参加人数41組 ●2月29日(水) 当日大雪のため中止	9月5日(月)に田園調布学園大学表現スタジオにて実施。区内在住の未就学児と保護者を対象に公立保育園と田園調布学園大学学生が連携し、楽しい遊びの場を提供し、子育て支援を行った。保育士は学生との交流を通して人材育成を図り、学生は事業を通じて子育て支援の実践力を養うことができた。2月29日(水)は当日の降雪により、安全を配慮し中止とした。	開催時期や構成等を検討し来年度に反映させて実施する。
2-6	継続	日本映画大学を活用した子育て支援事業			こども支援室	日本映画大学白山キャンパスで親子対象の撮影体験を通じて、親子の交流の機会を設け、子育て支援を行う。	8月20日実施。参加者57名(子ども29名、保護者28名)。	8月20日日本映画大学白山キャンパスにて実施。参加者57名(子ども29名、保護者28名)。 ①平成23年4月に開学した白山キャンパスの施設見学、②日本映画大学の講師で現役の監督の方による映画ができるまでの講義、③日本映画大学講師と学生の指導による実際の撮影機材を使った撮影体験を通じて親子の交流の機会とすることができた。また、父親の参加も多く見られ、父親の子育て参加を促すことができた。	次年度は、実施方法や対象、開催時期や構成、時間配分等を検討し来年度に反映させて実施する。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>4 環境まちづくり事業</b>									
1	継続	体験農業	1,000,000	0	地域振興課	区内に残る貴重な緑、特に希少となりつつある田んぼを活用し、親子で米づくりを体験する「体験農業」を実施し、米づくりの作業を通して親子の絆を深めるとともに、食の大切さ、農業の尊さを実感し、併せて都市と農業の共生について考える機会を提供する。	代替場所や実施主体等について関係団体と検討を行った。	田んぼの代替地の選定も含めて、事業内容、方法、実施主体について関係団体と検討を行ったが、代替地が見つからないことや人員の確保が困難であることなどから、事業の継続実施は困難と判断した。なお、JAセレサ川崎が実施主体として、区内の田んぼを活用し、児童を対象とした「体験農業」事業を実施している。	田んぼの代替地の選定も含めて、事業内容、方法、実施主体について関係団体と検討を行ったが、代替地が見つからないことや人員の確保が困難であることなどから、事業を終了することに決定した。
2	継続	あさお花いっぱい推進事業	900,000	701,098	地域振興課	区民との協働による地域の環境美化の及び地域コミュニティの推進を目的に、川崎市美化運動実施麻生支部と協働し、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体を支援していく。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に、寄与することができた。	申請団体も増え、今年度は18団体より申請があり、その全てに花苗・プランターなどを提供し、団体の活動の活性化及び地域の環境美化活動の一端を担うことができた。	自主的かつ継続的に花壇を管理している団体の活動の助成、地域に根ざした活動の発展、地域の環境美化に対する意識向上を達成するため、当事業による支援は重要であり、地域の環境美化活動に対する更なる区民の意識の向上、自然の保護や育成に今後も継続的に取り組んでいく必要がある。
3	継続	麻生里地・里山保全推進事業	1,180,000	1,153,635	生涯学習支援課	麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然を残しながら、川崎市の新都市としてのまちづくりが進められている。しかし、その一方で心を和ませてくれる里山やのどかな田園風景が失われつつある。このまちには先人達が築いてくれた自然と共にある貴重な文化や歴史を継承し、多様な協働や連携を図り、まちづくりに根ざした新しい里地・里山の魅力を引き出し、未来へつなぐための事業を展開する。	里地・里山カフェ塾を実施し里山ボランティアの養成講座を実施した。ネットワーク通信を発行し、自然環境保護の啓発を行った。	里地・里山カフェ塾を開催し、麻生の里山、川などの自然文化に区民が親しむ機会を提供し、自然保護に対する区民の関心を高めることができた。あわせて、里地・里山保全に関わるボランティアを養成することができた。からむし講座を開催し、多くの親子の参加を得て、次世代への伝統文化の伝承ができた。里地・里山通信を発行し、麻生区内に自然環境保護活動の周知をはかった。里山フォーラムを開催することにより、麻生区の自然環境保全に取り組む各団体が事業推進にあたり、連携をはかり、中間支援的団体としての役割を十分に果たすことができた。写真展も多くの応募があり、好評のうちに実施できた。	本年度実施の成果をさらに深めていく方向で、実施を予定。事業のさらなる効果的な実施のため、事業構成及び予算について見直しを行う予定。
4	継続	ヤマユリ植栽普及促進事業	363,000	333,121	地域振興課	区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の公園緑地管理運営協議会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動を促進、支援し、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。	●ヤマユリ植栽地の観察・管理活動 ●ヤマユリ鉢植え講習会を2回開催（種編、球根編） ●情報交換会1回開催	●地域団体との連携を図りながら植栽地の管理活動を進めることができた。 ●講習会を通じて参加者のヤマユリへの関心を深めることができ、普及会の入会者を増やすことができた。 ●情報交換会では、今までの講習会参加者が集い、ヤマユリ植栽方法等について情報交換が行われ、今後の課題と解決策を検討することが出来た。	貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通じて関心を喚起し参加者の拡大を図る。また、そのノウハウの蓄積、普及を推進することにより、地域の環境美化及び地域コミュニティの強化を促進していく。
5	新規	エコのまち麻生推進事業	1,496,000	912,622	企画課	区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する。	●ゴーヤーのカーテンを区内施設で展開 ●小学校への出前授業など自然エネルギーの啓発活動を行った。 ●エコのまち麻生の広報 ●外灯設備の改修	ゴーヤーのカーテンは、区内各施設（区役所、道路公園センター、保育園など）で広く展開した。自然エネルギー活用促進については区内で活動する団体への事業委託により、出前授業、自然エネルギー学校の開校、太陽光パネル設置相談窓口を開設するとともに、音楽団体と協働し、自然エネルギーを活用したお日さまコンサートを実施して新たな層への啓発を行った。これらに加えて、区ホームページ「エコのまち麻生」の広報も開始した。環境フェアの開催に向けた関係者との調整を実施した結果、「環境活動団体の交流」を主とした事業の検討を進めることになった。	「エコのまち麻生推進事業」全体の取り組み内容とその運営体制は前年と同程度に進める予定である。但し、環境フェアについては、運営主体となる区内各活動団体の連携と要望がまだ成熟しきれておらず、「環境活動団体の交流」を主とした事業に変更することを検討し、実施に向けての調整を行っていく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>5 地域資源活用事業</b>									
1	継続	麻生音楽祭	4,000,000	3,775,811	地域振興課	「しんゆり・芸術のまち」の推進と連携し、麻生区を中心に音楽活動をしている音楽団体、小学校・中学校・高等学校などの音楽グループが、それぞれの自主性を尊重しつつ、日ごろの活動の成果を披露し、相互の交流を図りながら、互いに学び合うという精神を生かすとともに、広く区民のきずなを深め、区政の推進と芸術文化の向上を図る場として実施する。	●区民主体の音楽祭の開催 ●舞台運営の講習会の開催	●麻生音楽祭の開催（期間：6月～7月【スクールコンサート（小学校・高等学校）】、コーラスのつどい、アンサンブルのつどい、ファミリーコンサート、かなでようあさおの響、はじめてのジャズ】6日間開催。入場無料。会場は麻生市民館ホール） ●バックステージ講習会の実施 ●開催期間パナーフラッグ掲出（新百合ヶ丘駅南口、北口、区役所前広場）	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。次年度以降は事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。
2	継続	あさお観光資源の魅力紹介事業	2,248,000	2,215,685	地域振興課	麻生区の魅力を区内外に向けて広く発信するための事業を実施する。 ●観光写真コンクール ●観光ガイドブック「麻生の魅力」の改訂	●観光写真コンクールの企画・実施 ●観光ガイドブックの改訂	●観光写真コンクールは、11月1日から作品募集を行い、審査会（2月）、表彰式（3月）を開催した。また、表彰式後に、区役所等において展示会を開催した。 ●観光ガイドブックは、関係団体や制作者とガイドブックの内容について検討を行い発行した。	観光写真コンクールは、過去3回開催した内容に基づき、より効果的に事業目的を達成できるよう改善していく。
3	継続	KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会	900,000	899,861	地域振興課	自然豊かで芸術文化の香り漂い、新たな故郷が感じられるまちづくりが望まれているなか、麻生区に定着している芸術文化資源「KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会」を有効に活用して、「ふるさとあさお」「芸術文化のまち麻生」を提供する。さらには、家族での夏休み最後の思い出作り場の場として提供する。	日時：平成23年8月20日（土）会場：麻生小学校体育館・校庭 来場者数：約1200人	●例年より多くの区民が参加し、親子のふれあいの場を提供することができた。 ●「藤子不二雄ミュージアム」のオープンを記念して、「ドラえもん」作品を上映するとともに、関連イベントを実施し、事業をPRすることができた。他事業との連携により相乗効果を生むことができた。	地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を内外に発信していく。
4	継続	ふるさとあさお再発見事業	1,310,000	1,304,426	地域振興課	【あさお古風七草粥の会】麻生区の豊かな自然の中で育まれた米・野菜・七草を用いて、「古風」の所以である焼いたお餅を加えたお粥を振る舞う。 【区内伝統伝承文化の紹介事業】区内に根付いた伝統伝承文化を広く区民に紹介し、伝統と文化に対する関心や理解を深めるとともに、「ふるさとあさお」の醸成及び継承を目指す。	【あさお古風七草粥の会】1月7日開催 【区内伝統伝承文化の紹介事業】実行委員会を立ち上げ、内容等について検討し、PR映像の撮影等を行った。	【あさお古風七草粥の会】関係団体と連携を図り、1月7日に開催した。 【区内伝統伝承文化の紹介事業】地域の有識者や日本映画大学を構成メンバーとした実行委員会を立ち上げ、映像の内容等についての検討を行うとともに、関係団体へのインタビューや撮影を行った。	地域に伝わる伝統伝承文化を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要であり、また広報等について効果的にやっていく必要がある。
5	継続	イメージアップ推進事業	1,600,000	1,304,600	企画課	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
5-1	継続	懸垂幕作成業務			地域振興課	麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等を応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出し、広く地域住民にPRする。	●桐光学園サッカー部全国大会出場応援懸垂幕の掲出 ●アルテリッカしんゆり開催PR懸垂幕の掲出	桐光学園サッカー部全国大会出場応援と、「アルテリッカ・しんゆり」の開催を地域住民にPRできた。	桐光学園サッカー部全国大会出場応援と、「アルテリッカ・しんゆり」の開催をPRする懸垂幕を掲出した。今後もスポーツ・文化活動において、全国的大会等に出場した学校について懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。
5-2	継続	新百合ヶ丘駅周辺の装飾事業			企画課	「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）」の開催期間に合わせて、区文化協会ならびに区内公立保育園・認可保育園と協働し、保育園児の作品展を開催する。	「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）」の開催に合わせた作品展の開催	麻生区文化協会、こども支援室、区内保育園（公立、認可保育園）と連携し、「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）」の開催期間に合わせて、4月27日～5月8日（12日間）にかけて、「しんゆり21ビル」内通路で作品展を開催し、来場者などに対し歓迎ムードを演出できた。	麻生区文化協会が「川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）」に併せて、美術展などの開催を予定されているため、本事業へ移行していくものとする。
5-3	継続	新百合ヶ丘駅周辺のイベント支援事業			企画課	公民協働による取り組みの内、「イルミネーションイベント」、「しんゆりオリブまつり」を区の共催事業と位置づけ、イベント開催に係る経費の応分を負担する。	「イルミネーションイベント」並びに「しんゆりオリブまつり」実行委員会に参加し、同事業の共催及び負担金の支出を行った。	「イルミネーションイベント」並びに「しんゆりオリブまつり」実行委員会へ適時参加を実施した。また、同事業に共催し、当初予算額を負担金とし支出し「しんゆり芸術のまち」推進に向けて協働した取り組みを行った。	芸術・文化のまちづくりは、区計画の主要な取組としても位置づけられており、民間が主体となった活動と連携した取り組みを推進することが重要であることから、現状どおり継続していく。
6	継続	地域資源を活用したまちづくり推進事業	1,200,000	793,000	企画課	地域の特色ある資源の活用を図り、教育機関や企業等の団体と連携した魅力あるまちづくりを推進する。	麻生観光ガイドの会、川崎フロンターレ、日本映画大学と連携し委託事業を実施	区の観光資源、スポーツ資源、学術資源である各委託先と、区民が広く参加することができるイベントを行い、区のもつ特色と魅力をアピールすることができた。	限られた地域資源の中で、新たな事業の企画、連携先を模索していく必要がある。また、区民ニーズや区役所の課題を反映させた事業を展開していく。
7	継続	あさお芸術のまちコンサート事業	2,770,000	1,658,858	地域振興課	平成12年度より始まった「あさおランチタイムコンサート」が会場を区役所ロビーから区内ホールへ移し名称を改め実施している。区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。	●コンサートの企画・運営 ●音楽家の発掘・人材育成 ●音楽家ネットワークの促進	●地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。 ●一回のコンサートにつき平均して200～300人の来場者（来庁者）があるとともに、毎回来場する根強いファンもおり、区民に期待されるコンサートとなっている。 ●他団体との連携を図りながら実施できた。（新春コンサートではあさお古風七草粥の会と協力、シネマサロンコンサートでは川崎市アートセンターとの協力により実施） ●開催回数を80回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っている。ネットワークには約80組が登録（毎年更新）。	平成21年度、22年度に事業整理を行ったが、実行委員のスキルも上がり、事業を軌道に乗せることができている。今後も他事業との協力・連携を一層図り効率的で効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家とともにより良いコンサートづくりに努める。
8	継続	しんゆり・芸術のまち推進事業	5,588,000	5,467,756	地域振興課	新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術関係のさまざまな施設や人材などの地域資源を活かし、事業者、教育機関、市民、行政等の連携により、「しんゆり」を中心とした活力ある地域経済の創造、豊かな地域社会の実現と芸術を通じた幅広い効果を追求する「しんゆり・芸術のまちづくり」の確立を目指す。	●「芸術のまちづくり」民間推進組織及び芸術関連イベントの支援、民間推進組織による地域情報の収集・発信により、芸術のまちづくりの推進体制が確立できた。	「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取組を実施し、芸術関連組織の行う活動を支援して、芸術のまちづくりの推進、芸術・文化を中心とした地域情報の収集・発信を行った。	●引き続き、「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取り組みを進め、芸術関連組織の行う活動を支援して芸術のまちづくりを推進するとともに、芸術・文化を中心とした地域情報の収集・発信を行う ●地域活性化ビジョンの結果を受け、民間とも連携した事業の展開 ●「しんゆり・芸術のまちづくりフォーラム」の運営補佐業務を、NPO法人に実施してもらうことで、円滑な事業運営を図る
9	新規	スポーツのまち麻生推進事業	2,025,000	1,560,822	地域振興課	「川崎フロンターレ麻生グラウンド」をはじめとした、区内のさまざまなスポーツ資源を活用した連携事業を実施するとともに、麻生スポーツセンターを核にして、地域のスポーツ関係団体の連携への協力や活動の支援を通して、魅力あるスポーツのまちづくりを推進する。	●区内スポーツ資源を活用した事業の実施 ●スポーツ推進組織の設置 ●スポーツ関連情報の発信 ●各種スポーツ大会の支援	●川崎フロンターレと連携した事業の実施（地域交流イベントを11月6日に開催、応援ツアーを7月30日、8月28日に実施、少年サッカー大会への支援10月16日の実施） ●第1回スポーツのまち麻生推進会議を9月27日に開催 ●あさおスポーツフェスティバル事業を計画通り実施（区内の各種スポーツ大会11団体、11事業への運営費の助成）	川崎フロンターレとの連携事業やあさおスポーツフェスティバル事業により、区のスポーツ振興を推進することが出来た。来年度も引き続き、スポーツのまちあさおの推進に向けて、より効果的・効率的な進め方を検証しながら取り組んでいく。
10	新規	区制30周年記念事業	600,000	544,089	企画課	区の花と木の制定・記念事業やイベントの開催を通して、麻生区の地域資源や魅力を再発見するとともに、区民どうしの交流を通じた地域の活性化と、区民の区に対する誇りや愛着を高める。	9月に実行委員会を設置し、平成24年度に行う記念事業の検討及び区の花と木の公募、選定を行った。	●実行委員会を設置し、平成24年度に行う記念事業の企画検討を行った。 ●区の花と木を公募し、平成24年度に行う「麻生区区制30周年記念」の冠事業についての一覧を広報した。	今年度企画検討した記念事業を、翌年度に実施し、区民どうしの交流を通じた地域の活性化を図り、区民の区に対する誇りや愛着を高めていく。
11	新規	スポーツ・健康ロード整備事業	100,000	34,324	地域振興課	区内のスポーツ資源を活用したまちづくりや区民の健康づくりを推進するための環境整備として、スポーツゾーンの玄関口である柿生駅から川崎フロンターレあさおグラウンドまでの行程を「スポーツ・健康ロード」として整備する。	23年9月の第1回スポーツのまち麻生推進会議で関係者に概要を説明。24年2月に検討会を開催	23年9月の第1回スポーツのまち麻生推進会議で概要を説明し、周知を図った。スポーツ・健康ロードの設置に向けて、24年2月に具体的な検討会を開催し、仕様や活用方法の検討を行った。	スポーツのまち麻生の推進の一環として、区民の意見を取り入れながら、より効果的・効率的な進め方を検証しながら進めていく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>6 地域コミュニティ活性化推進事業</b>									
1	継続	麻生区まちづくり推進事業	4,410,000	4,285,199	地域振興課	市民が主体となって「麻生区の市民自治」を推進していくことを目指し、3つのプロジェクト活動を推進する。地域の様々な団体の「連携」、「ネットワーク」を構築しながら、麻生区の課題解決に主体的に取り組む。	●環境家計簿を通じたエコ意識の啓発 ●町内会と市民活動を結び講座の実施 ●広報紙の発行	①エコで元気なまちづくり：環境家計簿モニタリング153件のデータを回収。各モニターの節電努力の結果、CO2削減率が大幅にUPした。 ②市民活動のパワーの源 達人をつくらう：これまでなかなか交流のなかった町内会と市民活動が協力する足がかりを作ることができた。 ③麻生区のまちづくりの広報：毎回特色あるテーマを選び、麻生の魅力を発信できた。	受託団体等と本事業の内容について意見交換をしながら、事業内容について検討して行く。
2	継続	麻生区市民活動支援施設利用促進事業	1,488,000	1,487,580	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を麻生区における多目的な市民活動支援拠点として位置づけ、同施設の市民活動支援の推進を図ることを目的として業務を委託する。	●交流イベント、人材育成講座等の実施 ●地域ネットワークサイトの運営及び区民記者の養成 ●市民活動相談窓口の運営	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関わる業務を行った。また、施設に印刷機やパソコン等の機器を配置している。	次年度は、地域活動への参加促進のための情報収集業務を追加積極的に提供していくとともに、引き続き市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。
3	継続	外国人市民地域活動参加推進事業	698,000	364,735	地域振興課	外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する。	●学校の授業中や放課後の個別指導 ●区内の公共施設における自由参集による集団支援 ●学校での支援における学校支援センターとの連携	●外国につながる児童に対して、学校の授業中や放課後に個別指導を行った。 ●区内の公共施設等で自由参集による集団支援を夏休みに実施した。 ●学校での支援における学校支援センターとの連携を図り、学校からの要請は学校支援センターを窓口とした。	外国籍等子ども学習支援事業として、こども支援室に移管
4	継続	麻生区地域コミュニティ活動支援事業	932,000	719,720	地域振興課	「麻生市民交流館やまゆり」を通じ、麻生区における市民活動団体等の地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を支援することを目的に、資金助成事業を行う。	●提案型事業の募集・選定・実施 ●選定された事業の支援 ●事業実施報告会の開催	●市民活動団体から地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を募集し、選定のうえ実施した。 ●選定された事業の計画・実施・広報へのアドバイス及び協力を行った。 ●昨年度の事業の成果等を発表する事業実施報告会を23年4月に開催し、今年度の報告会を24年4月に開催する。	来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく。
5	継続	麻生まちづくり学校事業	300,000	286,608	地域振興課	麻生区のみならずを進めるために必要な知識の取得、情報の提供、調査、研究、まちづくりを担う人材の育成及び地域主体のみまちづくりの推進を行う。	●年間5回の連続講座を実施	ワークショップにより、まちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶことができた。	参加者の運営参加など学習だけで終わることのないような体制づくりを目指す
6	継続	町内会事業提案制度事業	1,000,000	193,112	地域振興課	地域住民のつながり、地域の課題解決力の強化を目指し、区内の町内会・自治会が行う地域課題解決等につながる事業を支援する。事業案を町内会・自治会から募集し審査を行った上で、事業の有効性を判断し、提案元の町内会・自治会に委託という形で実施する。	平成23年12月時点で2件の提案があり、委託契約を締結している。	平成23年12月時点で2件の提案があり、委託契約を締結しており、年度内の事業完結に向けて協議を行う。	運用上の問題点を改善し、従来どおり実施する。
7	継続	麻生区地域功労賞制度事業	114,000	33,105	地域振興課	区内で活動している個人又は団体を対象とし、地域の活性化に貢献している個人または団体を麻生区長名で表彰し、地域活動への関心を高めることを目的とする。	●候補者の募集・選定・表彰という一連の事業を8月～10月にかけて実施	年度頭頭に計画した実施スケジュールに沿う形で、候補者の募集、選定、表彰を実施することができた。広報紙を活用し受賞者の活動紹介を行い、地域活動への関心向上への働きかけも達成できた。	現状どおり事業を継続する。事業の質を保つ留意点として募集・選定・広報が重要となる。
8	継続	麻生区市民活動支援施設活用事業	7,997,000	7,854,148	地域振興課	当該施設は、新百合ヶ丘南口・旧あさひ銀行グランド跡地の土地利用転換に伴い、応分の負担として開発業者が「市民活動の拠点施設」を整備することが決まり、平成19年4月に市に寄贈され、供用開始した。当該施設を多目的な市民活動の拠点施設として整備するとともに、市民の主体的な運営参画を実現することにより、市民活動の一層の推進を図る。	●市民活動支援施設として、場の提供、情報の提供、人材育成に寄与	運営するNPO法人あさお市民活動サポートセンターへの委託事業及び自主事業の展開により、市民活動の支援を行った。	開館より5年が経過し、館の存在はある程度認知された。今後はそこで行われる事業内容なども精査しつつ事業展開する必要がある。
9	新規	麻生区多文化共生推進事業	530,000	522,415	地域振興課	市民との協働により事業を実施する。多文化共生にかかるワークショップや講演会、麻生区在住の外国人市民との交流会等を通して、これまで、特に国際交流に関心が高くなかった層に対してもアプローチし、麻生区全体の国際性を高める。	ワークショップ、講演会、国際理解講座、外国人市民との交流会を実施し、子どもから大人まで多くの区民の参加を得て、多文化共生に対する理解を広め、麻生区の国際化に寄与した。	ワークショップ、講演会、国際理解講座、外国人市民との交流会を実施し、子どもから大人まで多くの区民の参加を得て、多文化共生に対する関心を掘り起こし、理解を広めることができた。外国人市民を地域の住民、隣人として認識する一助となった。アンケートの結果から、これまで知らなかったことを知ることができた、今後も学んでいきたいとの声を多く頂いた。	来年度においては、出来るだけ個人市民の参加を得ながら、事業内容を検討していく。

### 7 区役所サービス向上事業

1	継続	区役所窓口等サービス充実改善事業	855,000	1,191,783	保健福祉サービス課	臨時任用職員の配置により、窓口繁忙期の混雑解消と待ち時間の短縮、乳幼児健診時の受診者の誘導と乳幼児の安全確保を図ることで、より満足度の高い市民サービスを提供する。	●保健福祉サービス課繁忙期、乳幼児健診時の案内係として臨時任用職員を配置した。●区民課では、申請書類収納ラックを設置、記載台と待合椅子の設置場所を分離、2月には番号表示システムを設置した。●区役所快適化リフォーム時に待合スペースの拡張、窓口案内ラインを拡大・更新した。	●保健福祉サービス課では臨時任用職員による案内により、職員は来庁者の対応に集中でき、待ち時間の短縮化、快適、安心な利用環境を提供できた。 ●区民課では、来庁者が申請書類を見つけやすくなり、また、椅子にまつまぐこと等の状況が改善できた。番号表示システム導入後は、携帯電話で待ち人数の確認ができるようになることにも、行政情報を放映することで、来庁者の待ち時間の有効活用が図られた。●リフォーム時に、こども支援室、保健福祉サービス課では待合スペースを拡張、庁内全体に案内ラインを拡大・更新し、来庁者の利便性が向上した。	市民の皆様快適に区役所を利用していただけるよう、引き続き、ソフト・ハード両面から窓口サービスの充実・改善に取り組んでいく。ソフト面では、親切・丁寧で効率的・効果的な対応をめざし、案内係の配置や接遇研修を実施する。また、ハード面では、区役所を快適にご利用いただくため、ボイスコールの活用、手荷物置場の設置のほか、各種窓口環境の整備を行う。
2	継続	区政・地域情報提供事業	1,167,000	858,900	企画課	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり	以下のとおり
2-1	継続	麻生区統計白書作成			総務課	平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかになった麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成19年度に作成した「あさお区ってどんな街？」は2年間の配布用として15,000部作成した。平成21年度事業としては全面改訂し「知れば知るほどあさお元氣」を9,000部作成し配布した。また、平成22年度には内容を一部改訂し10,000部を追加作成した。23年度は国勢調査の結果が間に合わないため、更新できるデータを修正し作成する。	平成21年度作成の統計白書の再改訂を行い、全面的にデータを更新し一部内容も変更した。平成24年度配布用10,000部作成。	配布については、転入者への配布や区役所・図書館・市民館への配架を行った。改訂業務については平成23年度は昨年度に続き平成21年度に作成した統計白書の再改訂を行い、情報の更新が可能なものについては全て更新した。併せて、特定の見開きページにおいては麻生区内に特化した資料を3つ、世帯に関する資料を1つ新たに作成し、優先度の低い資料と置換える編集を行った。さらに、注釈を加筆し、表紙の変更を行うことで、見易さ・分かり易さの点において配慮を心掛けた。	現在配布しているものについて、区民の方だけでなく他市の方からも好意的な声が多く、将来的にも継続していくことが地域情報の提供に大きく寄与すると思われる。平成24年度には、平成22年国勢調査の調査結果の多くが公表されることから、事業を継続し3年ぶりに全面改訂を行いたい。改訂にあたっては費用対効果を追求、企画提案方式により委託業者を選定する。
2-2	継続	麻生区広報関係事業			企画課	区役所職員の広報・広聴業務に関するスキルアップとともに、区民にとってわかりやすく親しみやすいホームページ及び広報紙等の作成をめざす。	●ホームページの更新、作成研修の実施 ●広報紙作成研修の実施	区ホームページ更新にあたり、配置するパネルや庁舎フロア図等の改訂版を業者委託により作成することで、迅速かつ効率的に進めることができた。ホームページ作成研修を業者委託により実施した結果、区職員の作成能力が向上し、見やすくわかりやすいホームページ広報の実践に結びついている。広報紙作成研修も業者委託により実施し、区職員の広報力向上、ひいては区役所全体の広報力向上に寄与した。	次年度以降も引き続き、同様実施する。但し、広報紙作成研修については、職員のスキルアップと広報広聴業務の円滑化、最終的には区民にわかりやすい広報広聴を目指す目的のもとで、研修内容等の細部を修正しながら展開していく。

No.	新規・継続	事業名	予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業概要	実績	取組の成果	今後の方向性
<b>8 地域課題対応事業その他経費</b>									
1	継続	緊急対応事業	3,644,000	0	企画課	区内の緊急課題、区民要望等に対応した事業を実施する。	—	区内の緊急課題、区民要望等に対応するため、引き続き予算を確保する。	今後も区内の緊急課題、区民要望等に対応するための体制・予算等を確保していく。
2	継続	事務費等共通経費	1,043,000	651,805	企画課	地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品費等	事業運営に際し、円滑な事務を推進することができた。	地域課題対応事業の事務処理を円滑に実施するために必要である。	地域課題対応事業を円滑に実施するために、今後も事務費の適切な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。
3	新規	麻生区地域課題解決型提案事業	0	46,000	企画課	市民活動団体等と協働し、地域課題の発見と解決を図る新たな提案型事業の企画・検討を行い、提案型事業の公募を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●提案型事業の企画・検討を行い、要綱を整備した。</li> <li>●提案型事業の公募及び説明会を実施し、審査委員会で選考を行った。</li> </ul>	提案型事業の事業内容及び実施スケジュールを企画・検討し、区役所内での調整を経て10月に実施要綱及び審査委員会設置要綱を施行した。11月には庁内説明会を開催し、12月から市政だより区版等を通じて公募を開始し、市民活動団体等に対する説明会を開催した結果、12事業の応募があった。1月に審査委員会を立ち上げ、2月に提案団体による公開プレゼンテーション及び審査委員会による選考を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●選定された提案事業について、適切に実施するよう所管課と委託先の調整を図る。</li> <li>●提案型事業の公募・選定を引き続き実施する。</li> </ul>

合 計	68,685,000	54,942,146
-----	------------	------------